

## 「レクリエーションの見直しについて」業務委員会開催 地区レクリエーションの廃止は経費の削減か！？

本部は9月24日、「レクリエーションの見直しについて」業務委員会を開催しました。冒頭、会社は「福利厚生制度についての考え方」を説明しました。その内容は、当社の福利厚生制度は現在世間から見ても高い水準にあり、福利厚生制度については、世の中の動向、社会状況の変化、社員のニーズやライフスタイルの変化、会社の経営状態、当社の福利厚生レベルなどを総合的に判断して整理統合し充実を図ることとしています。会社は、福利厚生についてこの間次々と制度を削減してきました。本部は、社員のために福利厚生の削減はやめ、より一層高い水準を求め福利厚生の充実を図るべきだと主張しました。

以下、会社の説明と主な議論の内容です。

### ＜レクリエーションの見直しについて＞

- ・地区レクリエーションを廃止する
- ・職場レクリエーションの経費補助を参加社員  
1人あたり1年度につき3,000円に増額する。
- ・実施時期は平成25年4月1日より

### ＜福利厚生に対する会社の考え方＞

当社の福利厚生制度は、社員と家族の幸せの実現のため、社員と家族の生活をサポートするため、社員が安心して職務に専念できることを目的として、制度の充実を図ってきており、その結果、現在ではその水準は世間から見ても高い水準にあると認識しています。

また、福利厚生制度については、世の中の動向、社会状況の変化、社員のニ

ーズやライフスタイルの変化、会社の経営状態、当社の福利厚生レベルなどを総合的に判断し、必要に応じて整理・統合・充実を図ることにより、時代に適合したより相応しい制度を常に追求していく必要があると考えております。

この結果、近年では社宅の新設・建て替えやインフルエンザ予防接種の費用補助、メンタルヘルス不調に関する復職支援制度の構築、健康管理センターの4拠点化、人間ドック費用補助・対象年齢の拡大と婦人科超音波検査への費用補助、持家取得の更なる促進など、健康・住宅・資産形成といった実態的且つ社員の生活基盤の維持向上に資するものに重点を置いて、福利厚生制度全般のバランスを考慮しつつ、制度の充実見直しを図り、質的向上を図ってきているところです。

今後についても、世の中の動向、社員のニーズやライフスタイルの変化、当社の福利厚生レベルなどを総合的に判断し、福利厚生制度全体のバランスを考慮しつつ、今後とも整理・統合・充実を図り、制度の質的向上を図っていくこととし、より適切且つ妥当な福利厚生制度を追求していく考えです。

## **これ以上福利厚生の削減は止めること！**

組合：今回「福利厚生制度についての考え方」を会社は説明したが、なぜあらためて今回説明したのか。

会社：当社の福利厚生は相当高い水準にあること。健康や資産形成といった社員の生活基盤の維持向上をしてきたことや、今回レクリエーションを見直し、社内で整理が済んだため考え方を説明した。

組合：以前と変わったところはあるのか。

会社：健康や住宅関係を相当充実してきていることやレクリエーションの実態が変わってきている。

組合：具体的にレクリエーションとはどのようなものがあるのか。

会社：平成22年度の地区レクリエーションは、サマージャンボリー、サマーレクリエーション、運動会を行ってきた。

組合：参加率は何パーセントか。

会社：限られた人が参加する傾向にある。職場単位での参加や家族親睦までは達していない。家族のみなさんのニーズが変化している。また、ライフスタイルが変化している。ベネフィット等により、レジャー施設などの充実をしてきたことに踏まえて今回は見直した。

組合：地区レクリエーションをやめるとどの位の経費削減となるのか。

会社：この間、会社はレクリエーションに関わらず相当負担をしてきている。

組合：経費の削減としか考えられない。

会社：今回は経費の削減と関係ない。社員のニーズに合ったレクリエーションとして、職場に一人3,000円の補助をする。

組合：以前は何円支給してきたのか。

会社：2,000円である。

組合：支給方法はどのようにされるのか。

会社：参加者に対して職場から請求されて支給することとなる。

組合：職場で2回レクリエーションを開催する場合はどうするのか。

会社：2回に分けても構わない。

組合：会社は地区のレクリエーションは、職場間の親睦もあり、他系統との交流をすることにより安全・安定輸送に通じることとなるとしていたが考えは変わったのか。

会社：単独での参加や、職場単位の参加、家族単独の参加となってきた。職場でのレクリエーションや複数職場でのレクリエーションが開催されているため、補助金を増とした。

組合：今後福利厚生の実を充実を図っていくとしているが、新たに考えているものはあるのか。

会社：新たに考えているものは現在はない。

組合：今後、福利厚生制度に対して削減するものはあるのか。

会社：現在の所は考えていない。

組合：組合員・社員のためにこれ以上福利厚生の実削減はしないこと。また、より一層高い水準を求めて福利厚生の実充実をすること。

以 上